

3 自らのライフスタイルにあった生き方づくり

(1) 多様な働き方の実現

No.	事業名	担当課	内容(第2期計画記載)	実施状況(令和2年度)	評価	今後の取り組み	方向性
1	子育て中の親が働きやすい環境づくり	子育て支援課	子育てしながら働きやすい環境を整えるため、企業や労働者に対して、フレックスタイム制などの多様な働き方や育児休業制度、関係法令に関する情報提供を、県と連携し行います。また、「子育て応援の店」への登録を推進します。	病児保育事業、ファミリー・サポートセンター事業などの子育て支援に関する情報提供を行った。	B	子育てしながら働きやすい環境を整えるため、企業や労働者に対して、フレックスタイム等の多様な働き方や育児休業制度、関係法令に関する情報提供を、県と連携し行います。また、「子育て応援の店」への登録を推進する。	継続
		商工・企業立地課		市役所及びおごおり情報プラザにチラシを配架するなどして、福岡県が推進する「子育て応援の店」への登録推進に努めた。	B	引き続き、関係機関と連携し、積極的な情報発信に取り組む。	継続
2	女性の職場復帰・再就職のための支援の充実	商工・企業立地課	出産や子育て後の職場復帰・再就職の支援に向けて相談窓口の周知を行うとともに、職業安定所などと連携しながら情報提供や支援体制の充実を図ります。また、パソコン講座や起業・小売業について学ぶ講座の開催など、女性の再チャレンジを支援する事業の充実を図ります。	市役所及びおごおり情報プラザにチラシを配架するなどして、筑後労働者支援事務所に設置してある子育て女性就職支援センターをはじめとする関係機関が実施する各種相談会やセミナーの周知・情報発信を行った。	B	引き続き、関係機関と連携して就業支援を行うため、その情報発信等を行っていく。	継続
		生涯学習課		女性再チャレンジ支援事業では、コロナ禍により当初予定していた講座のうち3講座を開催することができなかったが、開講した講座ではいずれも女性の再チャレンジを支援することができた	A	「おうち起業応援講座」を受講した卒業生が活動できる場、拠点となる場を提供できないか、担当部署と協議を行うとともに、卒業生の自立化への支援体制についても検討する。	継続
		図書課		女性の就労支援につながる資料の収集を行った。また、講座、講演会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催することができなかった。	B	今後も女性の就労支援につながる資料の充実にも努めるとともに、講座・講演会を開催し、情報提供と支援の充実を図る。	継続
3	不安定就労若年者などに対する意識啓発・職業訓練の充実	商工・企業立地課	長期にわたり不安定な就労状況を続けるフリーターや、若年の非労働者に対して、就業意識の啓発に努めます。また、関係機関と連携しながら児童・生徒に対する職業啓発を行い、発達段階に応じたキャリア教育を計画的に推進します。	市役所及びおごおり情報プラザにチラシを配架するなどして、若年者就労支援センターや筑後若者サポートステーションなどの関係機関が実施する各種相談会やセミナーの周知・情報発信を行った。	B	引き続き、関係機関と連携して就業支援を行うため、その情報発信等を行っていく。	継続
		学校教育課		小・中学校の授業において、職場見学や職場体験学習を行った。また、キャリアパスポートを活用したキャリア教育の充実を図った。	B	引き続き、関係機関と連携しながら職場見学や職場体験学習を行っていくとともに、キャリアパスポートを活用したキャリア教育を推進していく。	継続

3 自らのライフスタイルにあった生き方づくり

(2) 男女共同参画社会の実現

No.	事業名	担当課	内容(第2期計画記載)	実施状況(令和2年度)	評価	今後の取り組み	方向性
1	男女共同参画計画に基づく事業の推進	総務広報課	「第2次小郡市男女共同参画計画」に基づき、男女が仕事や家事・育児を始め、あらゆる場面でともに活躍し支え合える社会の実現を目指します。そのために、セミナーや広報紙など多様な場面や媒体を活用し、情報提供や啓発活動を行います。	広報おごおりに「女と男 パートナーシップ」を掲載した。内容は、女性活躍推進法の改正、区長インタビュー、DV防止や審議会報告、相談窓口の紹介など。市ホームページ、SNSにて、市や県などの男女共同参画に関する情報提供を行った。	B	コーナータイトルを「Gender Equality～今とこれからを輝いて生きる～」に変更し、身近に感じられるよう市民へのインタビューを取り上げるなど、テーマや構成を工夫する。より幅広い分野の内容について啓発するために、過去掲載した記事の内容を再確認し、よりよい啓発記事について検討する。	継続
		生涯学習課		女性再チャレンジ支援事業や男の料理教室を実施したが、男女共同の視点に立った啓発活動はほとんど実施できていない。	C	講座開催時に情報提供や、講座終了後のアンケートに男女共同参画についての項目を設ける等を検討し、啓発活動を行う。	見直し

2	男性の子育て参画の促進	子ども育成課	夫婦が協力しあいながら子育てできる環境づくりに向け、父親学級や男性料理教室など、男性向けの子育てや家事に関する講座などを開催します。また、男性の育児休業取得に向けた普及・啓発を通じて、男性の子育てへの参画を促します。	ようこそ赤ちゃん教室における家庭教育講話を実施(妊産婦とその家族対象)し、男性が参加する子育てや家事に対する意識づけを行った。また、男性の育児参加を促すため、家庭教育学級の中で、年に2回お父さん向けの親子参加型の講座を実施した。子どもとのコミュニケーションツールとして育児に生かせるよう、支援をすることができた。	B	父親の育児参加を推進するため、家庭教育学級で「お父さん向け講座」を企画・実施する。	継続
		コミュニティ推進課		校区コミュニティセンターにおいて、男性向け料理教室を開催した。また、男性向け料理サークルの支援を行った。	B	引き続き、男性向け料理教室等の開催をとおして、男性の家事・育児への参画を促す。また、まちづくり協議会の拠点施設及び事務局として、青少年育成部会等の支援を行うことにより、性別や年齢を問わず子育て・青少年育成に携わることができる地域づくりを推進する。	充実
		生涯学習課		感染症対策を十分しながら、「男の料理教室」を実施したが、作ったものを持ち帰るという形式になったので、啓発活動をするに至っていない。	B	「男の料理教室」の受講生の年齢層が高く、子育て世代ではないため、若年層も受講できるよう、教室の実施形態を見直していく。	継続